

経営比較分析表（令和6年度決算）

群馬県富岡地域医療企業団 公立富岡総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	その他
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	20	対象	ド透1未訓ガ	教臨が感災輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	29,191	-	第2種該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 ヘ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
302	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	306
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
295	-	295

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の業務・ネットワークを基に）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

地域の中核病院として急性期医療を中心に救急医療、周産期医療、小児医療などの不採算医療分野も担っている。心疾患や脳血管関連の超急性期医療は、隣接医療圏の超急性期医療機関と連携している。

がん診療連携拠点病院として集学的治療を行うほか、有事の際の災害拠点病院として、また第二種感染症指定医療機関として機能する。がん緩和医療、非がんの人生の最終段階における医療まで幅広く実践すること、さらに地域の行政やケア介護関係者との連携強化も当院の役割としている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①～③「経常収支比率」「医療収支比率」「修正医療収支比率」は、人件費の上昇、物価高騰の影響を受け、100%を大きく下回った。

④「病床利用率」は、令和6年10月1日から病床数を減床したことにより増加した。

⑤⑥「入院患者1人1日当たり収益」「外来患者1人1日当たり収益」は、病床機能変更や新規施設基準取得により増加した。「外来患者1人1日当たり収益」は、化学療法増加により増加した。しかし、いずれも平均値と比べると下回っている。

⑦「職員給与費対医療収益比率」は、人件費の上昇により上昇傾向となっている。

⑧「累積欠損金比率」は、令和6年度の大幅な損失により生じた。

2. 老朽化の状況について

①②「有形固定資産減価償却率」「器械備品減価償却率」については、施設設備、器械備品ともに必要に応じて更新しているが、開院から30年以上が経ち、増加傾向にある。今後も急性期医療を提供できるよう計画を立てて更新していく。

③「1床当たり有形固定資産」は、有形固定資産の規模は大きく変わらないが、令和6年10月1日から病床数を減床したことにより増加した。

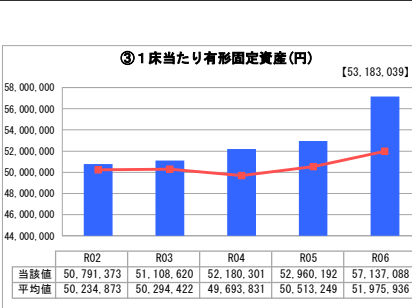
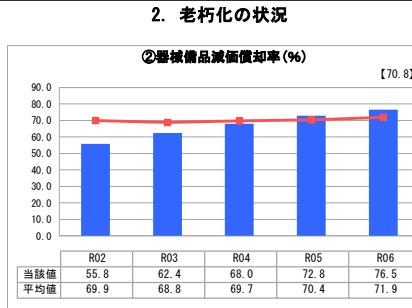
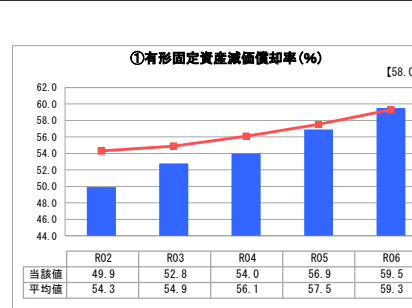
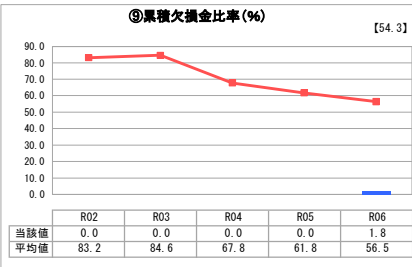
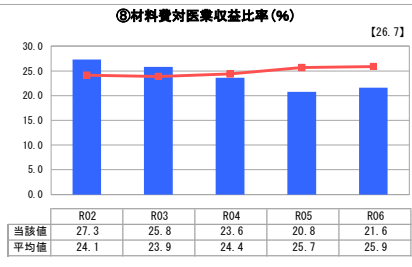
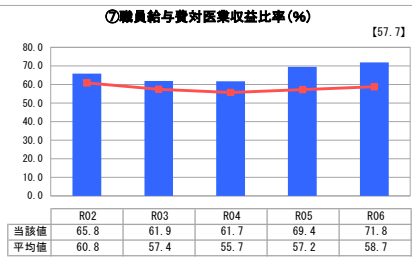
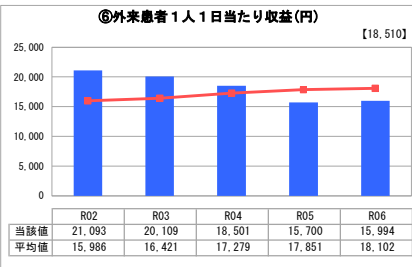
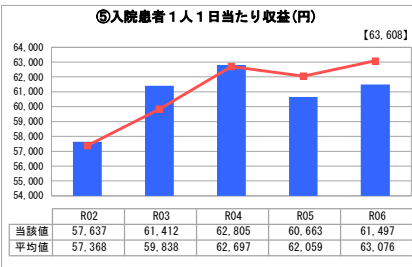
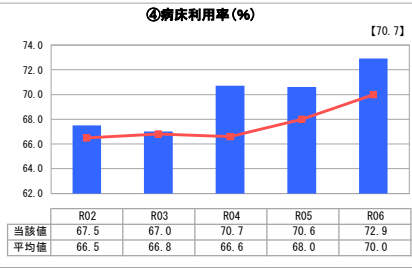
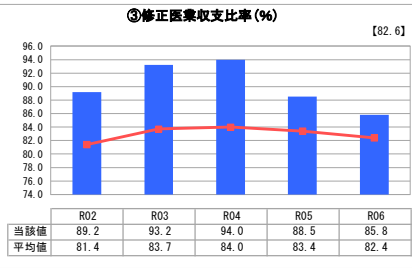
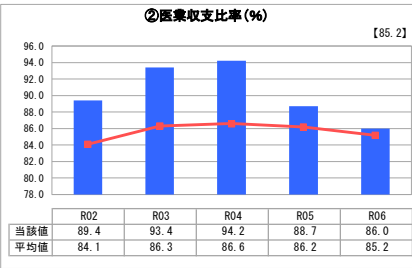
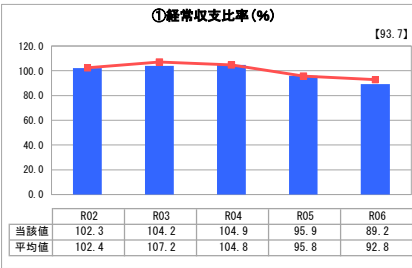
全体総括

入院、外来ともに患者数は減少したものの病床機能変更や新規施設基準取得、化学療法の増加等により診療単価が上昇し、医療収益は増加した。しかし、人件費の上昇、物価高騰による費用の増加が収益の増加を上回り、非常に厳しい決算となった。

地域の人口減少による患者数の減少、診療科によっては医師の集約化による患者受入が困難となる事例の発生により、病院運営は益々厳しくなってくる。こうした状況の中、病床機能、病床数など、適正となるよう見直しをしていかなければならない。

また、高度化、細分化が進む医療に対応するため、地域の医療機関、隣接する医療圏及び群馬県を1圏とする医療圏との連携の中で、地域における医療の確保を図っていく。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。